

AGPグループ中期経営計画 (FY15~FY19)



株式会社 エージーピー

2015.01.29

AGPグループは、高い技術力と環境社会への貢献によって、空港インフラ機能を担う信頼される企業になるとともに、空港の安全を守るために培われた技術を日本中の街へ、さらには海外へとお届けします。これにより、今後10年間で

- ・売上200億円、営業利益率10%以上を安定的に達成できる企業になります
- ・空港外の売上比率3割以上を目指します
- ・エコ・エアポートの実現を通してGPU利用を促進することにより、主要空港のCO2排出量を13.5万トン削減し、地球の温暖化防止に貢献します

既存事業において、事業基盤強化を推し進めるとともに、当社の技術力を活かせる成長領域への事業拡大により、永続的な発展を目指します。

- (1) 営業利益率10%以上を安定的に達成し、増収増益で成長する企業になります。
 - ・顧客ニーズに応えるための技術力と営業力を強化します。
 - ・培われた技術力を最大限発揮するとともに、コスト削減施策を推進し、既存事業の競争力を強化します。
 - ・人材育成・教育体制の充実を図り、社員に積極的に投資します。
- (2) 航空産業のイベントリスクに備えるため、空港外の売上比率を増やします。空港外・新規事業への積極的な展開により、FY19までに、空港外売上比率2割以上を目指します。
グループ会社のグループ外売上比率を高めます。
- (3) エコ・エアポートの実現などを通し、環境社会に貢献します。
当社動力設備の使用率を上げることで、CO2排出量の削減に貢献します。
環境への取り組みについて社内外への情報発信を強化します。

事業戦略の方向性

- 既存事業の競争力強化に加え、空港外・成長事業領域への積極的な展開を図ります。
- 顧客ニーズに応えるため技術力と営業力の強化を図り、生産体制の効率化を図ります。

利益率の更なる改善

黒字体質の定着

動力

供給率の向上

- 国内社・外国社・LCC別の顧客囲い込み施策とビジネスモデル構築
- IC・IPポートへの貢献
- 首都圏空港機能強化への確実な対応・空港インフラ機能の強化
- 仕様の見直し等による投資の効率化

整備・施設

競争力強化と空港外への展開

- 首都圏空港機能の強化、空港内外の施設拡充・更新等、ビジネスチャンス取り込み
- 協力会社との提携・人員リソース見直し等による競争力強化
- 支社支店間の支援体制強化・営業力の強化

- ● 待ち受け業務体質からの脱却

セキュリティ

支店網と外部リソース活用による全国展開

- 空港内保安設備需要の取り込みと空港外への展開
- メーカー・代理店との協力関係構築と地方協力会社の発掘
- 首都圏空港を拠点とした派遣・支援体制の構築

フードコート

顧客ニーズに応えた商品展開と市場開拓

- インカートッキングシステムの市場投入
- パーツのモジュール化・修理業務の外部化等による生産体制の効率化
- 単品メーカーからの脱却
- SSE体制の構築*
- 海外市場の開拓

FY19/売上高14億円

新規

成長事業領域への進出

- 植物工場事業のノウハウ定着と更なる事業展開
- 国家戦略特区の枠組み活用を含む教育事業の展開
- ビジネスジェット支援事業の展開
- 空港コンセッションへの運営側からの参画と事業領域の拡大

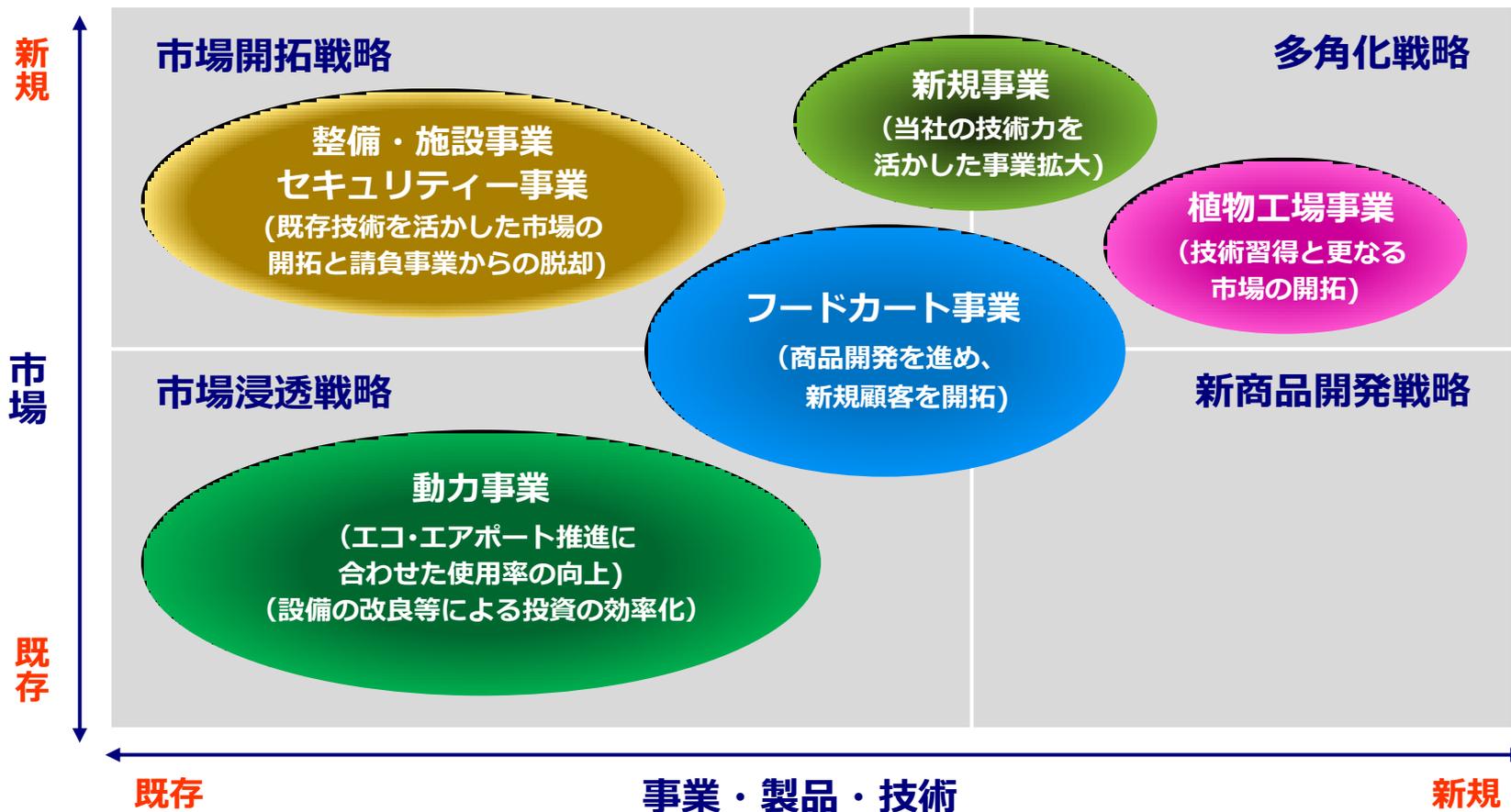
FY19/売上高15億円

- 人材育成の強化・資格取得の推進
- 事業規模に合わせた適正人員の配置
- 外部リソースの活用

* SSE体制(Sales & Service Engineering: 管轄したエリアの営業とメンテナンスを担うサービス員を配置する体制)

戦略マトリクス

- 営業力強化等による事業領域の拡大施策と既存事業の競争力強化・費用削減施策を両輪で推進します。
- 安全・品質の取り組みを徹底し、組織運営体制の整備・強化を図ります。



AGPグループでベクトルを合わせた
人材育成・教育体制の充実に向けた取り組みを実施します。

目指すべき社員像

- 高い目標を掲げることが出来る社員
- 目標に向かって有言実行で挑戦し、自らが成長できる社員
- お客様の信頼をより高いレベルで獲得できる社員



人材育成・教育体制の充実

体制・環境の整備

- 本社体制の強化
- 人材育成用の別枠予算の活用
- キャリアパスの明示
- 階層教育の充実
- マイスター制度・グループ管理職制度の導入検討
- 高齢者・外国人研修生受け入れ態勢整備

技術力向上施策

- 資格取得の推進、新規事業展開に伴う技術の習得
- 支社支店間交差教育の実施
- 営業力強化を目指した教育機会の充実

企業理念・長期ビジョン2025の浸透

- 連結営業利益率10%以上を安定的に達成できる収支構造を早期に構築することを最優先課題とし、達成が視野に入った段階で、その後の資本政策等の見直しを実施します。
- 財務広報の強化と個人株主拡大に努めます。

設備投資

営業CFは 設備投資に充当

- 更新投資を減価償却費レベルに抑制
- 営業CFは、ターミナル再編工事や成長戦略投資に積極的に充当

負債・資本

自己資本比率 50%以上を維持

- 自己資本比率50%以上を維持
- 成長戦略投資では、臨機応変に借入金を活用

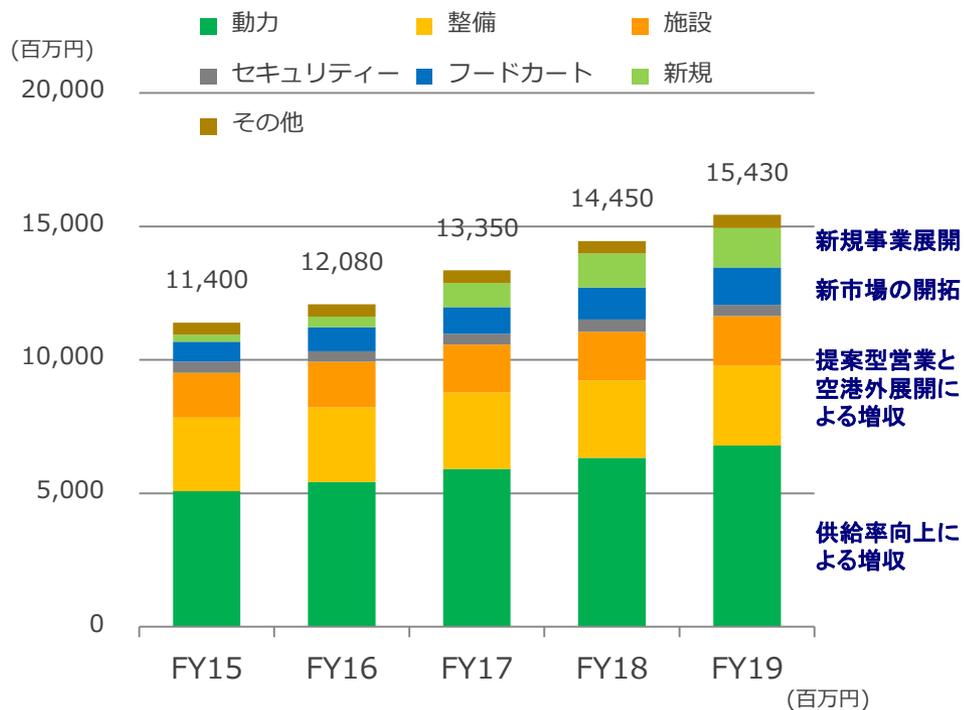
配当政策

安定配当を堅持

- 営業利益率が安定的に10%以上を確保できるまでは、配当性向20%を目安とした安定配当を実施
- 成長戦略による企業価値並びに株価の向上を目指す

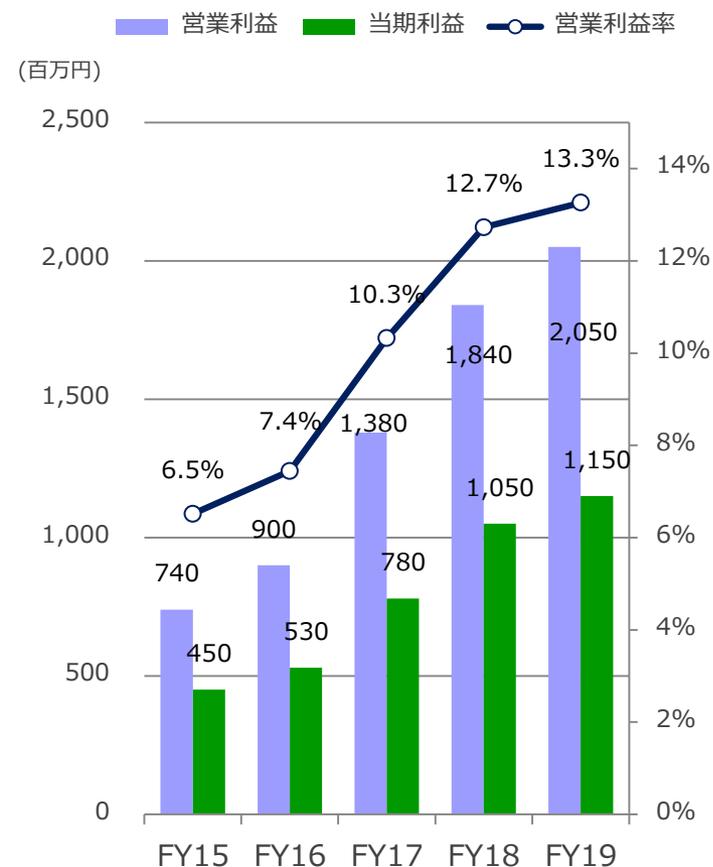
FY15-19 収支計画

<売上高>



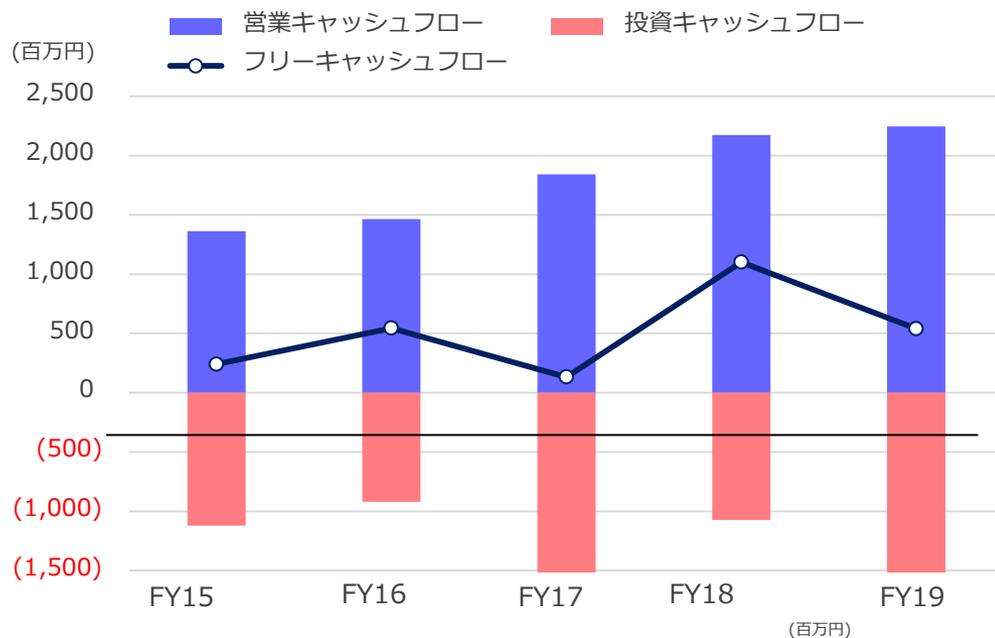
	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19
売上高合計	11,400	12,080	13,350	14,450	15,430
(動力事業)	5,085	5,423	5,911	6,325	6,787
(整備事業)	2,750	2,795	2,863	2,900	2,985
(施設事業)	1,685	1,714	1,797	1,821	1,869
(セキュリティ事業)	405	391	404	461	423
(フードカート事業)	750	900	1,000	1,200	1,400
(新規事業)	259	398	908	1,275	1,475
(その他)	458	462	469	470	493

<利益>



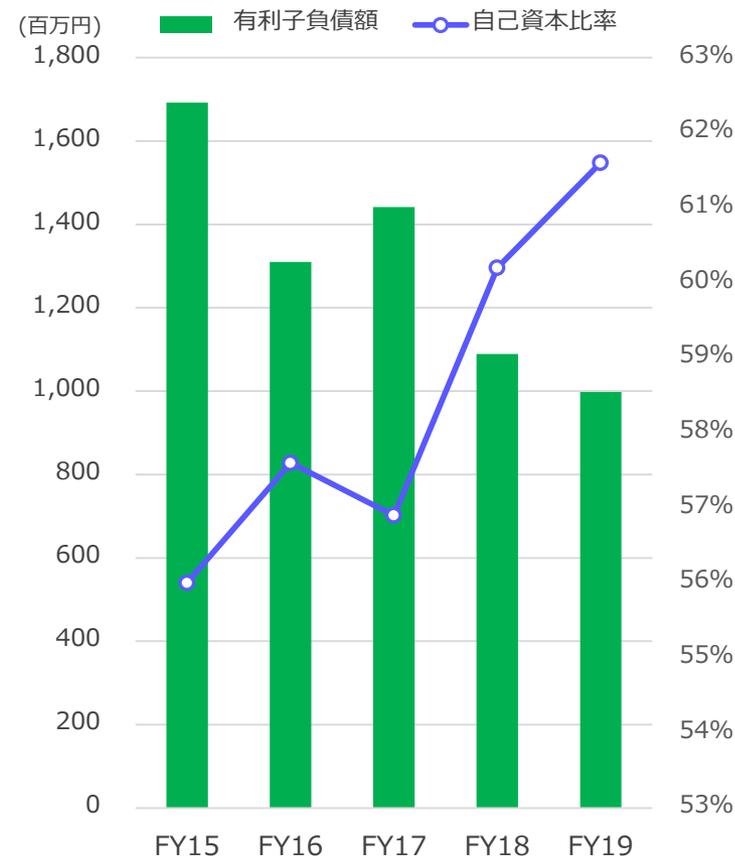
FY15-19 資金計画

<Cash Flow>



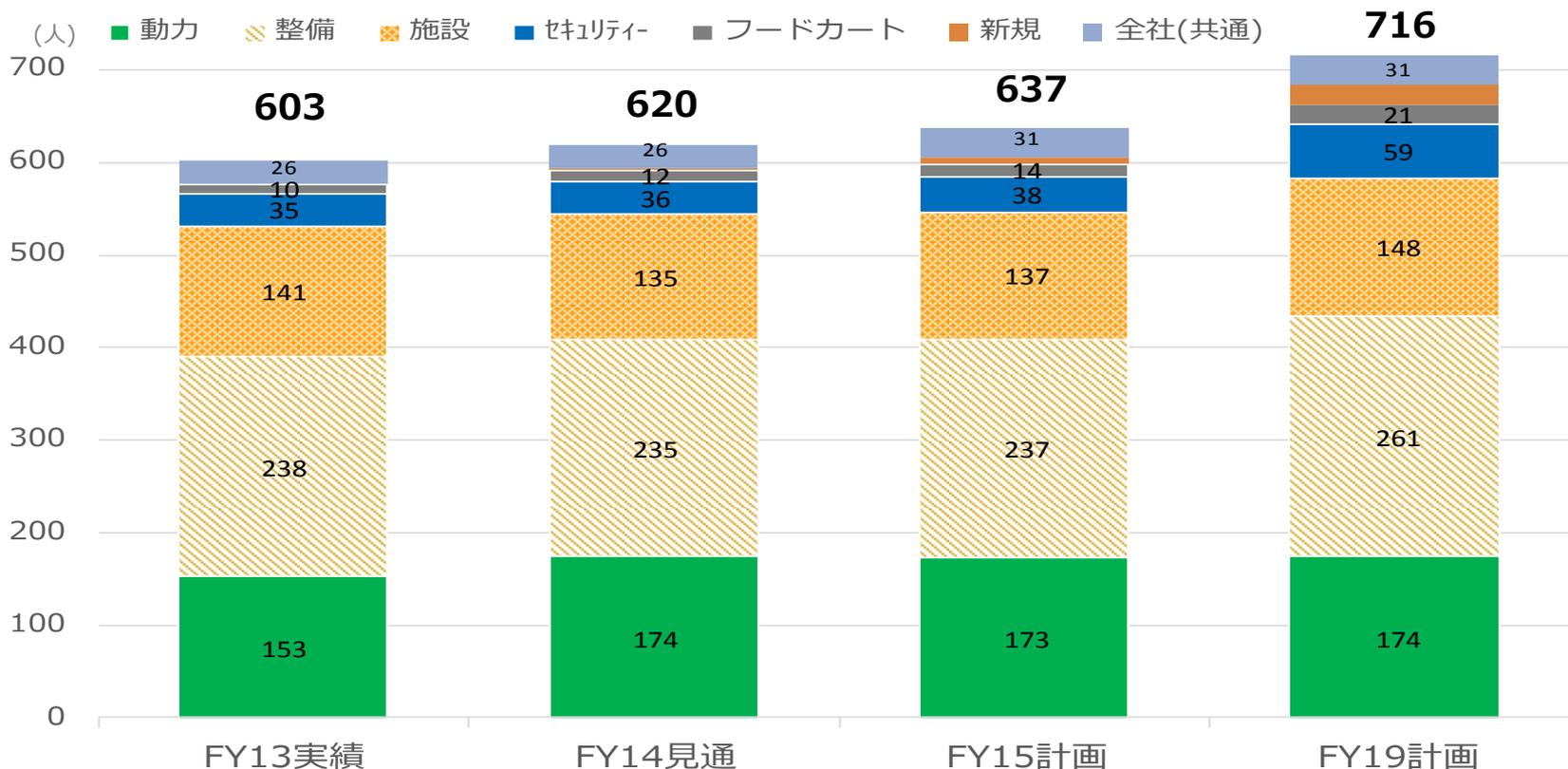
	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19
営業キャッシュフロー	1,360	1,460	1,840	2,170	2,250
(減価償却費)	891	936	970	959	955
投資キャッシュフロー	-1,120	-920	-1,710	-1,070	-1,710
財務キャッシュフロー	-210	-530	-40	-570	-330
(新規借入)	300	0	500	0	200
キャッシュ増減	28	12	89	529	214
フリーキャッシュフロー	240	540	130	1,100	540
ROE	6.3%	7.1%	9.6%	11.7%	11.6%
営業利益率	6.5%	7.4%	10.3%	12.7%	13.3%

<有利子負債額>



	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19
有利子負債額	1,690	1,310	1,440	1,090	1,000
自己資本比率	56.0%	57.6%	56.9%	60.2%	61.6%

人員計画



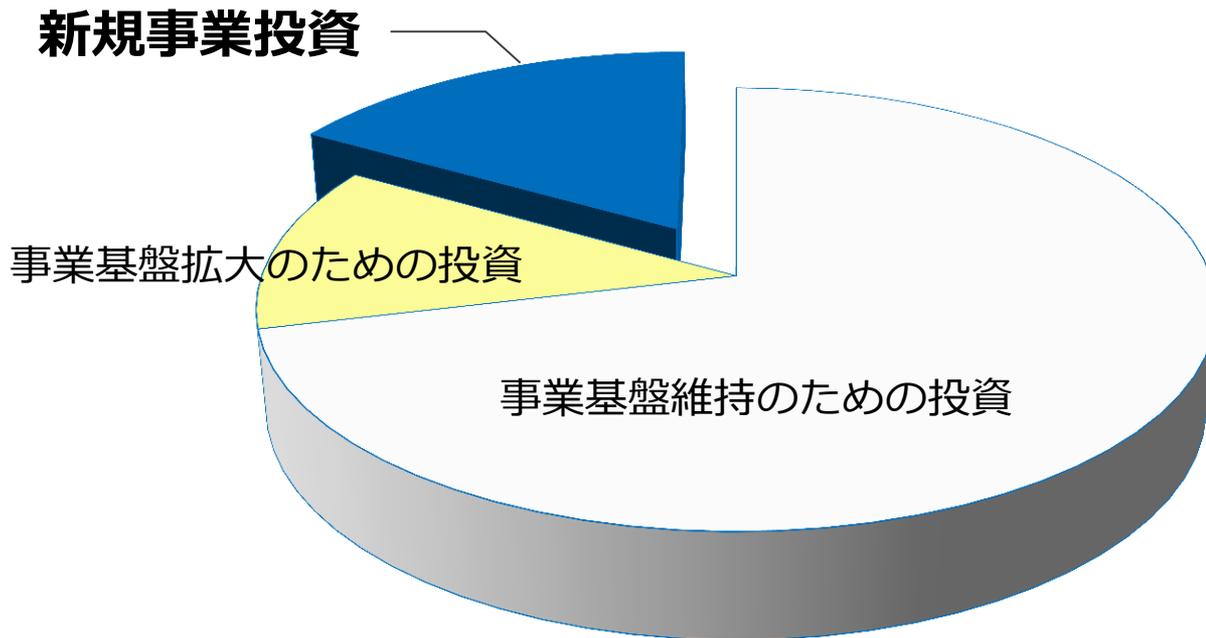
(注) パート・アルバイト、派遣は除く
 全社(共通)は特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものを示す。

成長戦略に必要な人材は、自社ソース以外にパートナー企業との連携等により確保します。FY16-18においては、首都圏空港機能強化を見据えた前倒しの人材確保を行い、ビジネスチャンスを活かせるよう人材育成を強化します。

FY15-19 設備投資内訳(リース除き)



AGP CORPORATION



(単位:百万円)

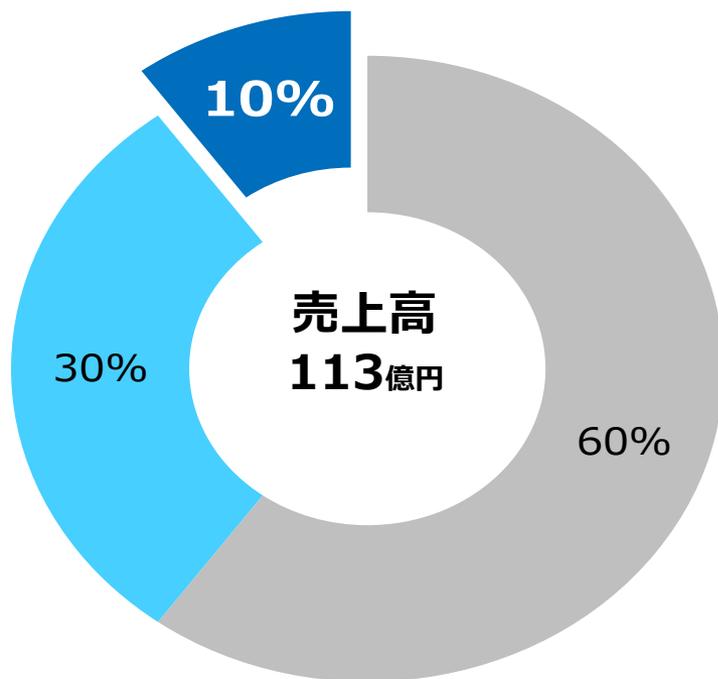
	FY15-19
事業基盤維持のための投資	4,700
事業基盤拡大のための投資	800
新規事業投資	1,000
合 計	6,500

顧客別売上割合

航空産業のイベントリスクに備えるため、航空会社・空港会社などの既存顧客以外のビジネス領域(フードコート、植物工場事業やビジネスジェット支援事業等の新規事業)の強化・拡大を図り、FY19までに空港外売上比率2割以上を目指します。

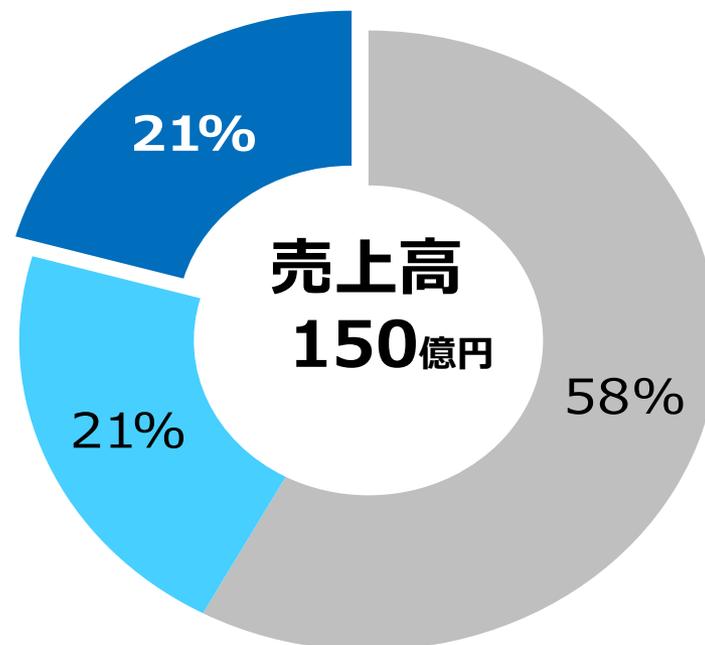
<FY13売上割合>

■ 航空会社 ■ 空港会社 ■ 航空・空港以外



<FY19売上割合>

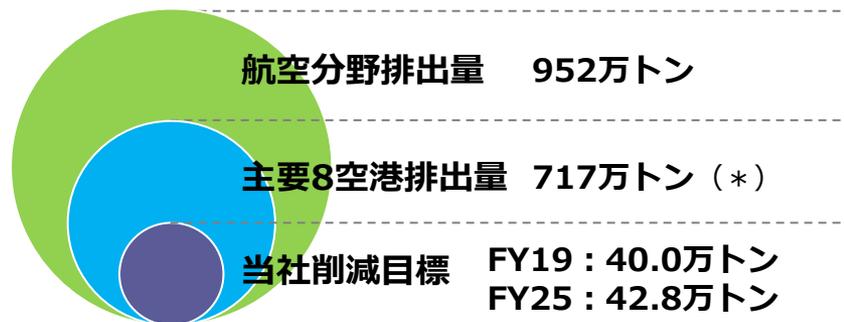
■ 航空会社 ■ 空港会社 ■ 航空・空港以外



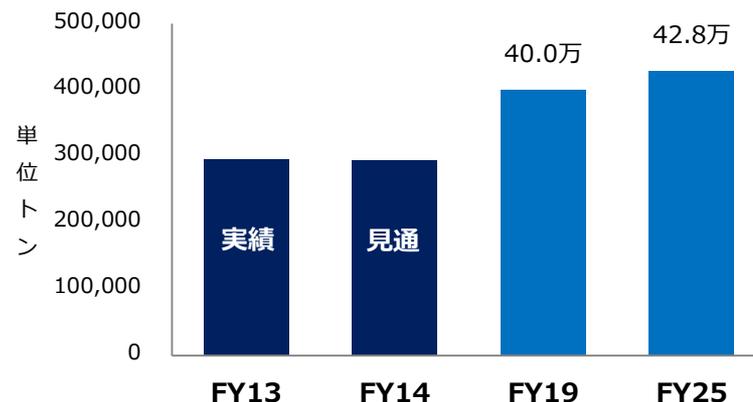
環境への取組みと目標

GPU利用促進により、主要空港のCO2排出量を、2019年度までに2014年度対比10.7万トン削減することを目指します。

<航空分野CO2排出量に対する当社削減目標>



(*) 航空分野排出量に発着回数比率を乗じた概算値



<全事業分野における環境への取り組み>

動力事業

- 空港・空港周辺における更なる環境負荷削減策として
- 電気自動車EVや燃料電池自動車FCVの導入促進
 - 省エネ機材の促進や再生可能エネルギー等の新技術導入

整備・施設 ・セキュリティ事業

- 省エネ運転や省エネ部品の提案及び導入、部品交換回数の削減等
- CO2を削減する太陽光発電の保守業務への参画

フードカート事業

- 省エネ、省スペースが特徴のAGPフードカートの販売

新規事業

- 完全閉鎖型工場における無農薬、低生菌、無洗、長持ちの低カリウムレタスの生産

グループ経営数値目標

	FY19時点目標値	FY25時点目標値
連結売上高	150億円	200億円
連結営業利益率	10%以上	
自己資本比率	50%以上	
ROE	10%以上	

当資料に記載されている事業名は、弊社の連結財務諸表又は個別財務諸表においては、現時点での事業の性格、量的な重要性等を勘案し、整備事業と施設事業をまとめて整備事業、セキュリティー事業、フードカート事業、新規事業、その他をまとめて付帯事業として報告しています。

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

当資料に記載されている将来の業績予想は、技術、需要、価格、経済環境の動向により変化が発生する可能性があり、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

お問合せ先

株式会社エージーピー 総務部 総務・IRグループ



電話: 03-3747-1631

FAX: 03-3747-0707

URL: <http://www.agpgroup.co.jp>

(会社案内ビデオがご覧いただけます)